



the 10th WEAJ Conference

WILDERNESS EDUCATION ASSOCIATION JAPAN

the 1st LNTJ Conference

LEAVE NO TRACE JAPAN

— 持続可能なアウトドアを目指して —

June 11 & 12, 2022
Asakusa, Tokyo

主催:一般社団法人Wilderness Education Association Japan ・ NPO法人 Leave No Trace Japan

後援:公益財団法人 日本アウトワード バウンド協会/一般社団法人日本セーフティパドリング協会/公益社団法人日本山岳ガイド協会
日本ボーイスカウト東京連盟/東京都キャンプ協会/Social Active Network of outdoor education (SAN) ※順不同

CONTENTS

Forward 1
Program 2

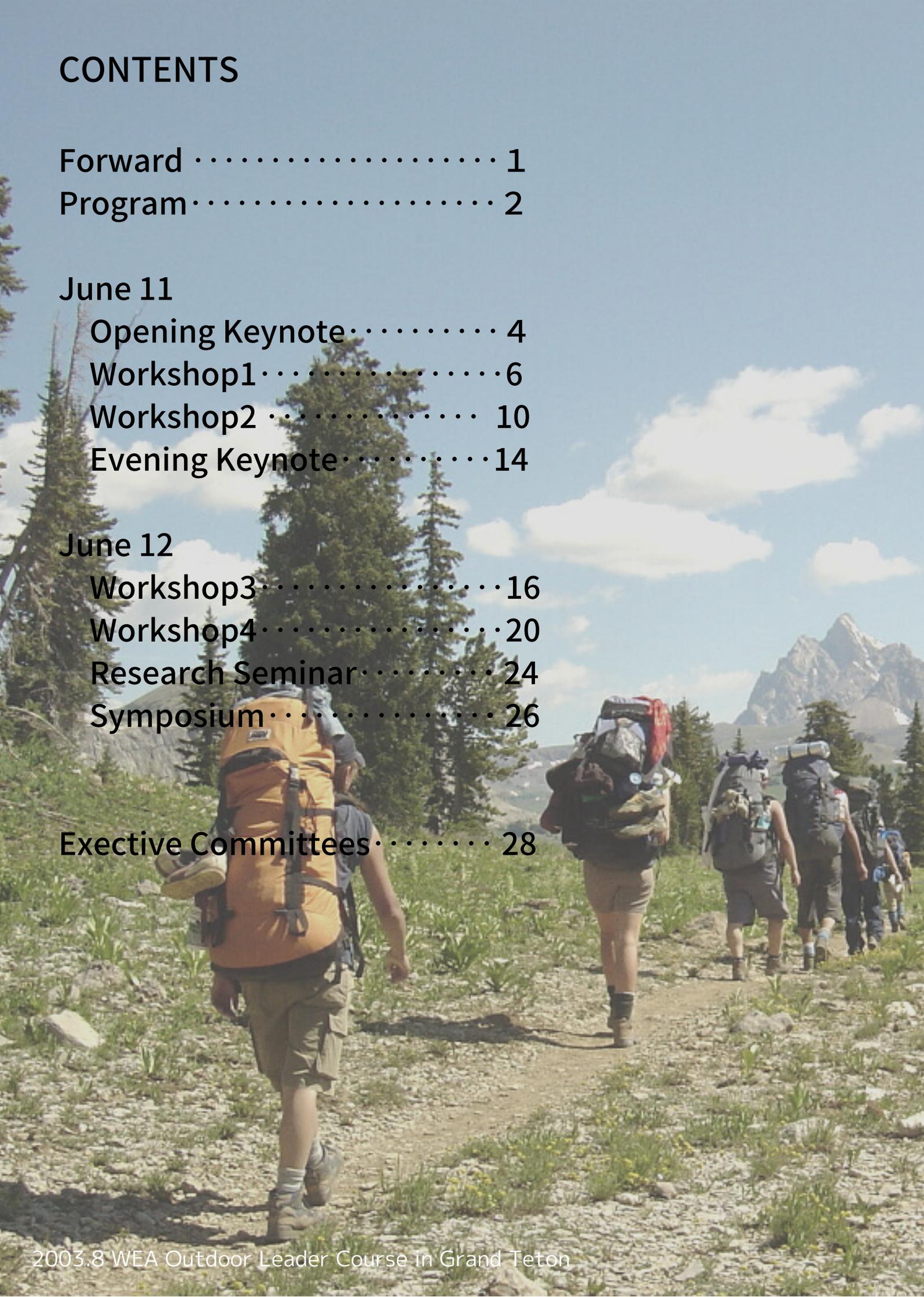
June 11

Opening Keynote 4
Workshop1 6
Workshop2 10
Evening Keynote 14

June 12

Workshop3 16
Workshop4 20
Research Seminar 24
Symposium 26

Executive Committees 28



FORWARD

開催趣旨

カンファレンステーマ 『持続可能なアウトドア』

2013年にスタートしたWilderness Education Association Japan (WEAJ)も早いもので、10周年を迎えます。まずはこの10年間ご協力、ご尽力いただきましたみなさまに、心から感謝申し上げます。国際基準の導入・普及を通して、日本の野外/冒険教育の専門性の向上と職業としての確立を目指し、進んできました。この10年、環境変動の加速化や新型の感染症によるパンデミック等急速な社会変化を受け、これからどうなるのか、どう生きるのか、まさに「持続可能性」が問われています。アウトドア業界においても私たちの大切なフィールドである自然環境と人がいかに健全な関係を発展させ、持続可能性を探るかがこの業界の生きる道です。

そこで第10回のカンファレンスでは、「持続可能なアウトドア」というテーマで、アウトドアに携わるすべての人が、安全で楽しく、持続可能な方法でアウトドアを実践できるよう考えていきたいと思えます。

また、今回は、2021年に発足しましたリーブノートレースジャパン (LNTJ) の記念すべき第1回カンファレンスとのジョイントカンファレンスとして実施します。LNTとは、野外/冒険教育ではおなじみの、環境に与えるインパクトを最小限にアウトドアを楽しむための環境倫理プログラムですが、教育者だけでなく、アウトドア活動をするすべての人たちが、その考え方や必要性を理解し、実践をすることから、すべてのアウトドアユーザーの環境倫理・行動が変わると、それこそが「持続可能なアウトドア」につながるものであり、まさにこれからのアウトドアのキーワードしていく必要があります。

地球の財産である自然環境を、安全に楽しみながらその価値や責任を伝えていく、これはアウトドアのガイドや指導者の共通の使命です。今回は海外よりこの分野での著名な方々をお招きし、グローバルな視点からのアウトドアを学びます。また国内からは、多様化するアウトドア業界を代表するアウトドアツーリズムや教育、研究など幅広くアウトドアに携わる専門家の方々と共に学び、これからの持続可能なアウトドアを一緒に創っていきましょう。

第10回WEAJカンファレンス実行委員長
林綾子 (Ayako Hayashi)

第1回LNTJカンファレンス実行委員長
寺田達也 (Tatsuya Terada)

Program

JUNE 11

9:00 受付開始

10:00 オープニング

11:00 オープニングキーノート(Susy Alkaitis/LNTセンター副代表)

12:00 ランチブレイク/LNTインストラクタークリニック

13:00 ワークショップ 1

- WEA認定プログラムの歩き方：なぜ資格が必要なのか（島崎晋亮/SOUP）
- LNTティーチング・チップス10連発（越生寛子/パーソル）
- PP(ポール・ペッツォル)語録を使いこなす！（林綾子/びわこ成蹊スポーツ大学）

14:30 ワークショップ 2

- 長野発野外研修の可能性（村澤圭一/信濃毎日新聞株式会社）
- 遠征プログラムと森の思考～気候危機にどう立ち向かえばいいのか？
（阪田晃一/神戸YMCA）
- 林業×LNT：山人からのアウトドア産業への言霊
（原薫/柳沢林業株式会社、齋藤理/鳴子温泉もりたびの会）

16:00 LNTJ・WEAJ総会/プロモーションアワー

18:00 イブニングキーノート(Dr. Joel Meier/インディアナ大学名誉教授)

19:00 アワードセレモニー

19:30 WEAJオークション

20:30 終了



JUNE 12

9:00 受付

9:15 ワークショップ 3

- ・プロとして在り続けることとは：WEAポートフォリオ（個人学習記録）から考える（林健児郎/大阪YMCA）
- ・LNT的!?裸足ウォーキング（島崎敏一/waqua合同会社）
- ・「安全」のつくり方-野外におけるリスクとの折り合いを意図して-（中村正雄/大東文化大学）

10:45 ワークショップ 4

- ・野外企業研修の経済的価値について考える（森本弘太/エンカレッジ）
- ・LNTで考えるWEAジャッジメント（吉田理史/SOUP）
- ・リサーチゼミナール（徳田真彦/大阪体育大学）

12:00 ランチブレイク/WEAインストラクタークリニック

13:00 シンポジウム「野外指導者・アウトドアガイドにとって大切な資質とは」

15:00 クロージング

16:00 終了



Opening Keynote

11:00-12:00



長年にわた入り副代表として、Leave No Traceを支え、世界各国のLNTの活動、設立を支援してきた経歴から、アメリカ国内だけではなく、南米、ヨーロッパ、アジアなど世界各地のLNTの導入事例と、その効果をご紹介します。

SUSY ALKAITIS

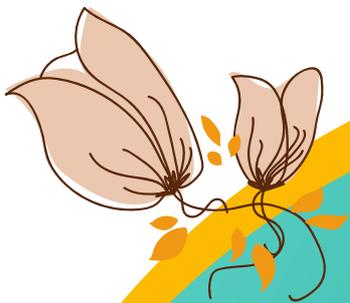
DEPUTY DIRECTOR, LEAVE NO TRACE

Leave No Trace connects the outdoor around the world リーブノトレイスが世界のアウトドアをつなぐ

スージーは、LNTの副代表として、組織の発展やプログラムデザイン、企業、政府などのステークホルダーとのパートナーシップなどを手掛けてきました。情熱的な環境保護者であり、教育から持続可能性まで幅広いキャリアがあります。

彼女は、資源開発、構成的な情報ネットワークの構築、革新的な教育戦略など、LNTの発展に大きな影響を与えてきました。特に、LNTの国際連携プログラムを開発し、海外トレーニングチームを組織し、組織の情報交換、マーケティング、資金調達などに貢献してきました。また、LNTの理事会とも緊密に連携し、近年新たに起こるアウトドアに関する幅広い問題に対してその解決にあたっています。また、「アムステルダムヨセミテ」「冒険の科学」などを執筆し、全米のメディアに対して、環境問題についても寄稿しています。

2002年にLNTで活動を開始する前は、全米山岳ガイド協会と、登山・クライミングの環境保全を行うアクセス基金を歴任しました。また、長年にわたり、芸術に対する関心も高く、ユタ州立大学で芸術科学の修士号を修めています。日頃は、アメリカ西部の雄大な山の中で過ごすことを楽しんでいます。





ネクシス エヴォ ミッド ウォータープルーフ

NXIS EVO MID WP

“NO TERRAIN IS THE SAME. (ひとつとして同じ道はない。)”の頭文字から名づけられたNXISコレクション。高いクッション性を誇るソールユニットとKEEN最先端の技術をハイブリッドした、ハイパフォーマンストレイルシューズ。ファストハイクやライトトレッキングなどのアウトドアフィールドでの軽やかな足運びをサポートします。

ネクシス コレクション

NXIS Collection



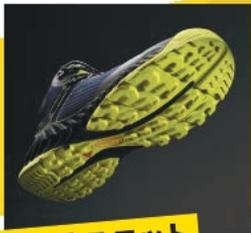
NXIS EVO WP

汎用性の高いローカットモデル。



NXIS SPEED

通気性の高いノンウォータープルーフ。



ソールユニット

厚みのあるEVAミッドソールのクッション性が、快適な運びをサポート。



コネクト・フィット

V字型のヒールキャプチャーシステムがかかとのフィット感をアップ。



トゥ・プロテクション

KEENのDNAであるトゥ・プロテクションがつま先を保護。

KEEN JAPAN

KEENFOOTWEAR.COM



KEENはLNTオフィシャルパートナーです。

Workshop 1-1

13:00-14:30



WEA認定プログラムの歩き方：なぜ資格が必要なのか

島崎晋亮（信州アウトドアプロジェクト）

林健児郎（大阪YMCA）

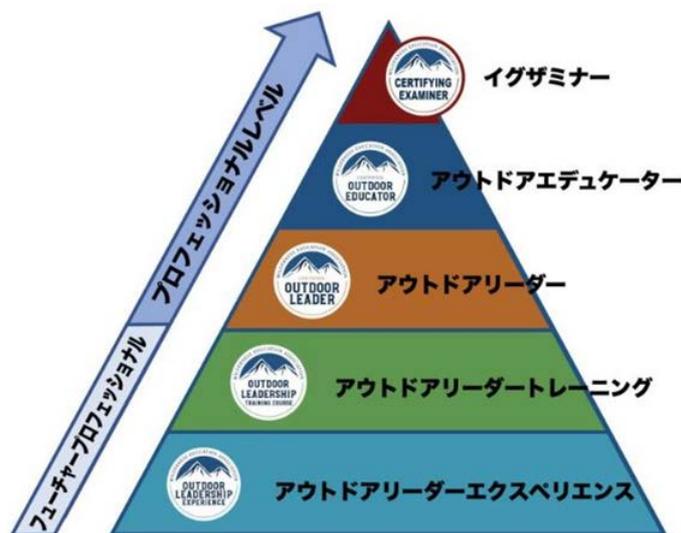
岡村泰斗（backcountry classroom Inc.）

WEAでは、長年にわたり、野外指導のプロフェッショナリズムを追求するために、野外指導者の教育カリキュラムと資格システムを開発してきました。

そしてこの度、資格制度が更新され、新たに「アウトダリアーエキスペリエンス」という認定コースが生まれました。

このコースは、これから野外指導に興味を持ち、将来プロフェッショナルを目指すかもしれないエントリーレベルを対象にしています。この制度がスタートしたことによって、これまでに以上に、WEAのカリキュラムに触れる機会をつくるのが可能となります。

そこでこのワークショップでは、WEAのエントリーレベルからプロフェッショナルレベルまでの認定制度を紹介し、みなさんのプログラムにどのように貢献できるか理解を深めます。また、このワークショップを通じて、資格、公認、認定、修了などの似たような概念を整理して、その必要性や価値についても理解したいと思います。



2013.3 WEA Outdoor Leader Course in Appalachian Trail

Workshop 1-2

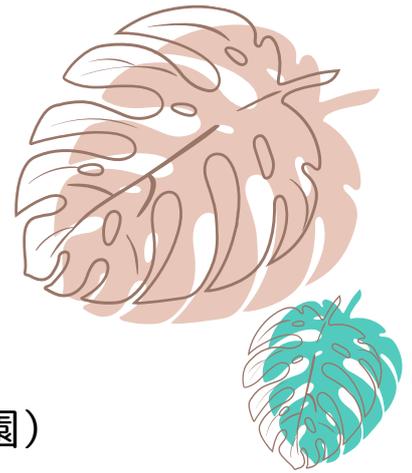
13:00-14:30



LNT小ネタ10連発

越生寛子（パーソル）

河崎真莉菜（さぎぬま幼稚園）



「Leave No Trace」略してLNTとは、環境に与えるインパクトを最小限にして、アウトドアを楽しむための環境倫理プログラムです。そのすべてのテクニックが、7つの原則をもとにしていて、誰にでもわかりやすく、楽しく実践することができます。「楽しく実践する」それを伝えるために、SPECモデルというティーチングスキルを取り入れたアクティビティを、今回は一気に紹介します。

SPECとは、WEAの教育法で、「Student Centered（生徒中心）」「Problem Based（問題中心/問題起点）」「Experiential（体験的）」「Collaborative（共同的）」の頭文字をとっています。私もLNTコースを受けたとき、初めてのティーチングはとても難しく苦戦したことを覚えています。そんなLNTティーチングですが、指導を重ねるごとにどんどん楽しくなってきました。そんな経験から生まれた鉄板のアクティビティを、みなさんとシェアできればと思います。一つのアクティビティが約5-6分ととても短時間ですが、そのポイントをわかりやすくお伝えしますので、ぜひ実践してみてください。

予定しているアクティビティは次の通りです。

- ・エコロジカルチェーン（原則7：他のビジターへの配慮）
- ・LNTサイコロトーク（原則7：他のビジターへの配慮）
- ・10エッセンシャルギア（原則1：事前の計画と準備）
- ・草の気持ち（原則2：影響の少ない場所での活動）
- ・プープ・レース（原則3：ゴミの適切な処理）
- ・スウェッジカクテル（原則3：ゴミの適切な処理）
- ・見たものはそのままに（原則4：見たものはそのままに）
- ・ベアバックショット（原則6：野生動物の尊重）
- ・その距離いいね（原則6：野生動物の尊重）
- ・LNTポリス（原則7：他のビジターへの配慮）



時間内に10個終わらなかったとしてもご愛嬌。今回のアイデアをもとに、みなさんのオリジナルのアクティビティをたくさん作って、実践してほしいと思います。なにより、このアクティビティを通して、LNTの楽しさやおもしろさがみなさんに少しでも伝わると嬉しいです。ぜひ遊びにきてください！

Workshop 1-3

13:00-14:30

PP(ポール・ペッツォル)語録を使いこなす！



Paul Petzoldt

林綾子 (WEAJ理事・びわこ成蹊スポーツ大学)

水津 真委 (WEAJアウトドアエデュケーター・びわこ成蹊スポーツ大学)

Joel Meier (モンタナ大学/インディアナ大学 名誉教授)

冒険教育のビック3団体、Outward Bound(OB), National Outdoor Leadership School (NOLS) そしてWEAの3つの団体の設立や発展に寄与した重要人物のPaul Petzoldt (ポール・ペッツォル) (1908-1999)ですが、日本での知名度は非常に低いんですね。このワークショップでは、ポール・ペッツォルについてまずは、どんな人物であったかを知ってもらいたいと思っています。特に、語り継がれている多くの彼の言葉 (PP語録) やエピソードを用いて、彼のユニークで愛すべき人柄や、教育哲学、ウィルダネスへの強い思いが伝わればと思います。WEAの神髄を突いているともいえるPP語録からカリキュラムの理解を深め、日本の指導現場でどのように活用するかを一緒に考えていきましょう。より深い理解の基に、独特なPP語録を指導者が使いこなすことで、冒険教育の核心の理解が広まっていくことを期待しています。

ワークショップの流れ(予定)

1. ポール・ペッツォルってどんな人？

浮浪者、農家、世界的登山家、山岳ガイド、陸軍インストラクター、OBインストラクター、登山用品店経営者、NOLS創業者、WEA創業者、Paul Petzoldt's Leadership Schoolの創設者であると同時に、度重なるトラブル、警察沙汰、4度の結婚、と波乱万丈な人生だったようですが、その人物像に迫りましょう。

本カンファレンスのキーノートスピーカーとして来日くださるJoel Meier氏が直接ポール・ペッツォルと関わった時のエピソードも共有していただきます。

2. 言い伝えられるPP語録はたくさんありますが、いくつ説明できますか？

Expedition Behavior, Grasshopper Methods, 20-20 vision decision, chew cud, Cigarette theory, Me no lost tepee lost, Eat like Indians, White man fire, Nick the Greek -Look at the Las Vegas odds, Meet you at the old oak tree. That's once, Let's see the real people.

Educate, don't _____ . Rules are for _____ ,

Don't give me college answer, tell me _____ . Do NOT _____ .

アウトドアリーダーの3つのルールとは？

3つの挑戦することとは？ サバイバルの状況になったらどうする？

3. PP語録を使いこなすために、そのティーチャブルモーメントを考えましょう。



発表者：林綾子・水津真委



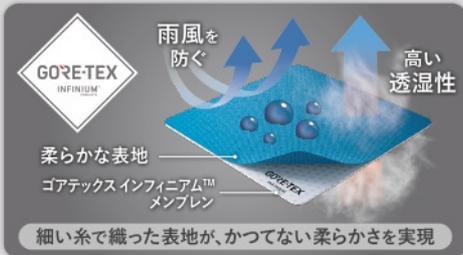
発表者：Joel Meier

SINCE 1975

mont-bell

軽く、柔らかな 全天候型ウェア

優れた防水透湿性と柔らかさ



ウインドシェルとしても使える着心地



レイントレッカー ジャケット

#1128648 Men's ¥15,950 (内税10%)



188g
(Mサイズ)



153g
(Mサイズ)

#1128650 パンツ Men's ¥10,450 (内税10%)

□ジャケット・パンツともに、女性用モデルもございます。

www.montbell.jp

0088-22-0031 携帯・IP電話 06-6536-5740

詳しい商品情報はここから

レイントレッカー



Workshop 2-1

14:30-16:00

長野発野外研修の可能性



村澤圭一、小澤修治（信濃毎日新聞株式会社）
島崎晋亮（株式会社信州アウトドアプロジェクト）



我が国では、学校教育や青少年を対象とした野外教育は、長年の歴史がありますが、近年企業を対象にした、社員研修のための野外教育プログラムにも注目が集まり始めています。信濃毎日新聞社は、信州アウトドアプロジェクトと連携し、2021年より、長野県内外の企業を対象に野外研修（事業名「信州アウトドア研修」）の提供を開始しました。

このワークショップでは、野外教育や野外研修について詳しく知らない企業が少なくない中、本年度実施した「信州アウトドア研修」の事例を基に、野外研修にどのようなニーズがあるのか、また、野外研修を導入する際の課題に何があるのか議論したいと思います。

長野県など地方の中小企業にとって人材育成は大きな課題である一方、大都市圏に比べると研修の機会も限界があります。そのために、地域の自然環境を活用し、地元の人材を育成することのできるWEAのメソッドに、今後の我が国の地域活性に大きな可能性を感じています。

＜＜信州アウトドア研修とは＞＞

信濃毎日新聞社は、数多くの山岳や高原など豊かな自然環境に恵まれた長野県を基盤とする会社として、新規事業「信州アウトドア研修」をスタートしました。少子高齢化をはじめ、時代の変化に直面し、新聞社として新たな姿を模索しています。本事業は、従来の事業領域を超えた新たなチャレンジです。

「信州の山や自然を生かして日常を離れた体験を提供し、あすの一步を応援する」を「信州アウトドア研修」の事業ミッション（使命）に掲げます。自然は癒される一方、時に厳しさを見せつけられます。そうした環境下で行う企業研修などを通じ、今を生きる人たちのチャレンジを支えたいと思っています。

信州（長野県）の新聞社、野外研修事業を始める 信州アウトドアプロジェクト（栄村）とともに



明日をひらく、その一歩。
信州アウトドア研修

「今を生きる人たちの
チャレンジを支えたい」

信州の自然に飛びこむ。



明日をひらく、その一歩。

信州アウトドア研修

多くの山岳や高原など豊かな自然環境に恵まれた信州（長野県）を
基盤とする会社の新規事業の1つとして取り組んでいます。
はじめは企業向けに展開します。我々の新たなチャレンジです。



Company Profile



信濃毎日新聞株式会社

所在地 **長野本社**

〒380-8546 長野市南県町657

創刊 **1873（明治6）7月5日**

遠征プログラムと「森の思考」～気候危機に立ち向かう ～神戸YMCAでのショートエクスペディションの実践から検討する～

阪田 晃一（神戸YMCA）



問題意識の所在

Intergovernmental Panel on Climate Change（気候変動に関する政府間パネル、以下：IPCC）は、2022年4月に第6次評価となるAR6/WG3報告書の政策決定者向け要約（SPM）を発表し、2025年をピークにCO₂排出量を削減することができなければ、温暖化に歯止めがかからない可能性があるとして危機感を示した。

Climate Clock 運動が訴えるように、地球温暖化が進み、全体で気温が1.5度上昇してしまうと、その後の変化は予測不能で、後戻りできなくなると言われている。

ベストセラーとなった斎藤幸平著「人新世の資本論(2020)」の書名にも引用されているように、人工物に覆い尽くされた大地は「人新世」という言葉で批判的に表現されており、地球環境からの逆襲として捉えられている。

チョムスキー&ポーリン著「気候危機とグローバルグリーンニューディール政策(2021)」で両氏は、気候変動の影響を最も受けていて、そのことに最も無関心な国として日本を名指ししている。台風や大雨などの災害による被害が突出しているからだ。同著でチョムスキー&ポーリンは歯止めが効かない人類の営みの問題を「人間が組織だって生きていくことの実存的危機」とし、大規模定住社会を問題にする。

大規模定住社会と民主制

大規模定住社会とは、およそ1万年前に始まった農耕社会（もしくは法社会）に端を発する。それまで遊動民として暮らしていたヒトが、より快適に暮らすために定住し、ストックを持つようになったとされる。

ロビン・ダンバーは霊長類の脳の大きさと平均的な群れの人数の相関関係から、一人のヒトが「仲間と思える適正数は150名程度である」ことを割り出した。また活動によってはより少ない数が適正とされ、ゼミのような集団であれば25名程度、遊動民が組織する単位(バンド)では50名程度だとした。

同じような議論が社会学にもみられる。ジャン・ジャック・ルソーは民主制がうまく機能するための前提条件として、「ピティエ」という憐れみの能力が各人に実装されていることを必須とした。またアダム・スミスは資本主義がうまく機能するための前提条件として、同感能力が必須だとした。共に、何かの決定が仲間に対してどのような影響を与えるのかを感じる、感情的能力に注目している。

ジョン・デューイに始まるプラグマティズムも感情能力に注目し、知識の伝達だけではなく「内なる光」の受け渡しが大切だとした。ルドルフ・シュタイナーも同様に感情的能力の涵養の重要性を説く。

環境倫理学者のベアード・キャリコットは、「地球の洞察(2009)」の中で、さまざまな文化的背景を持つ人々の、環境に対する倫理観を調査し、環境倫理は土着の信仰に基づいているとした。また「場」を生きもとして捉える重要性を主張している。

以上さまざまな分野の専門家が、同様に「感情的能力」に注目していることが興味深い。

人類学的視点と「森の思考」

エドワルド・コーン「森は考える(2016)」や、レーン・ウィラースレフ「ソールハンターズ(2018)」は、人類学における「多視座主義」を報告している。共に、森で暮らす民のフィールドワークから、この世界には様々な視座が存在する事実性に着目した。

コーン(2016)よれば、森とはあらゆる存在の比喩であり、あらゆる存在はそれぞれに別の仕方でも、しかし同じ世界を体験しているとする。

森の思考を描いた映画「彷徨える河(2016)」では、世界を把握する方法としての夢が注目されている。言葉によって世界を体験しているのは大規模定住以降の人間だけで、かつてヒトは言葉ではない装置（例えば夢）で世界を体験したことを示唆している。

本発表では、以上のような知識を「森の思考」と捉え、あらゆる存在の視座に立って森を歩くことを目的とした2泊3日のショートエクスペディションに参加した学生の体験や感想、及び引率者が確認した変化から、人々の「感情」に注目し、「森の思考」を取り入れた遠征プログラムが、気候危機に立ち向かうための一助となり得るかどうかにについて検討する。



林業×LNT:山人からのアウトドア産業への言霊

Workshop 2-3

スピーカー : 原薫 (柳沢林業株式会社)
 齋藤理(鳴子温泉もりたびの会)

14:30-16:00

モデレーター : 岡村泰斗 (backcountry classroom Inc.)



リーブノートレイスジャパンは、環境へのインパクトを最小限にしたアウトドアレクリエーションの教育と普及のために、2021年に設立しました。LNTは、主として、アウトドアを訪れるビジターや、その機会を提供するアウトドアプロバイダーやキャンプ場など、自然環境を活用したサービス業（三次産業）を対象とした概念であり、林業、農業、漁業など自然界に働きかけて富を生む一次産業を対象としておらず、同じ土地利用における大きなギャップを生んできました。一方で、一次産業事業者の中でも、独自のコンテクストで、持続可能な一次産業のあり方を模索する動きも起こっています。このワークショップでは、林業を営む新進気鋭の2団体に登壇していただき、これらからの林業のあり方とLNTの親和性、林業の目に映る今日のアウトドア産業に対して提言します。

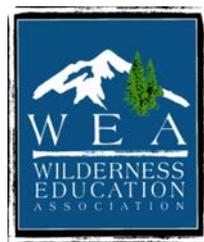
柳沢林業は、長野県松本市で操業する林業会社で、木材の生産、森林整備を事業とする傍ら、馬搬、馬耕などを取り入れた里山の再生や、山の恵みとしての水と米を使いこりか醸した酒造り、自然の素材感を生かした木製品加工、豊富な薪や林業体験を提供するキャンプ場運営飲食業などを手がけることにより、林業を通じた、里山の再生、新たなライフスタイルの提案をおこなっています。

鳴子もりたびの会は、鳴子温泉の一角にある川渡温泉の水源となるエコラの森を拠点とし、木材の生産、建材の加工、家具の製造を行い、一連の工程で生じる木材のバイオマス燃料による循環型ビレッジを提案しています。同会は、これらの循環型ビレッジを教材としてビジターに対して環境教育、自然体験を提供しています。

いずれの団体も木材を余すことなく活かすカスケード利用を目指す一方で、山へのインパクトを最小限にした木材の生産や地域特性にあった山づくりを実践するなど、これまでにない林業の構造の変革にチャレンジしています。また、消費者が人間中心の価値観を維持する限り、自然界の自然（じねん）を歪めざるを得ず、一次産業がその犠牲を払っている現実を訴えます。人間生活が、より自然中心となり、あるがままの自然を受け入れるライフスタイルが、一次産業の経済効率を上げ、環境への負荷の低減になります。消費者の価値観の醸成に、一次産業が果たせる役割には限界があります。自然との媒介者となり、消費者に自然との関わり方を伝える、アウトドア産業が、人間中心のスタイルを自然の中に持ち込むのではなく、あるがままの自然を受け入れる自然中心の価値観への転換を進めていただけることを期待します。



Evening Keynote



アメリカの野外・レクリエーション分野が最も発展した時期に実践・研究両面にて多大な貢献を果たしたレジェンドであるマイヤー博士が、60年以上にわたる世界中の冒険・研究経験より、自然環境の持つ普遍的な価値をアウトドアの専門家が人々に伝えるために必要な資質をいかに身に付け、展開していくか、アメリカの事例よりお話しくさせていただきます。

DR. JOEL MEIER

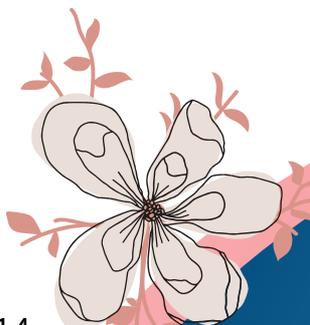
PROFESSOR EMERITUS AT INDIANA UNIVERSITY
AND THE UNIVERSITY OF MONTANA

Affirming core competencies of outdoor leaders

野外指導者に必要な資質を確かなものに

ジョーマイヤー先生は、アメリカインディアナ大学とモンタナ大学の名誉教授であり、長年大学での学部長等役職を務めながら野外・冒険教育分野の学生指導・研究に従事し、また関連協会の会長職を多く務め、アメリカのこの分野における最高の名誉ある賞を多く受賞し、レジェンドと称される人物です。WEAの最高賞であるPaul Petzolds リーダーシップ賞も受賞しています。

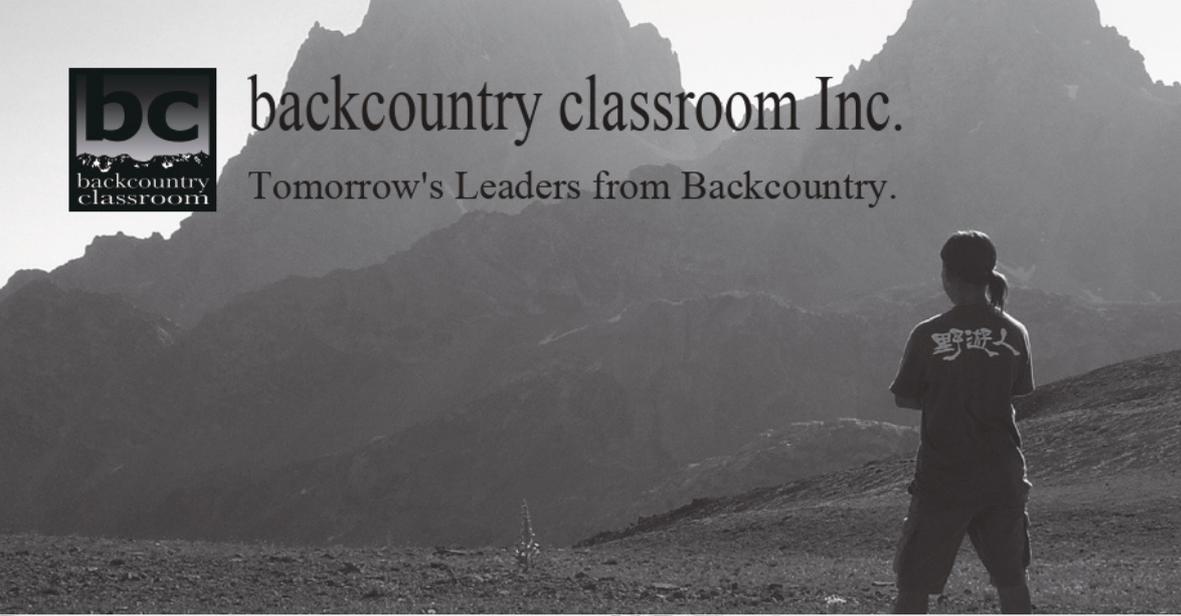
世界中でキャンプ指導のバイブルとされている「キャンプカウンセリング」の著書の一人であり、その他もウィルダネスや野外指導、リスクマネジメントに関する多くの研究業績を出版しています。また、アメリカの大学教育内に長期冒険遠征や冒険教育の資格取得を含んだ Semester 制のプログラムを開発、発展に貢献し、アカデミックとしての冒険教育の発展に貢献しました。アメリカに限らず世界各国の教育・研究機関の役職に従事しています。ジョーとその妻のパティは世界7大陸にその足跡を残し、冒険を繰り広げてきました。登山、バックパッキングでのネパール等のウィルダネス遠征や、カヤックでのアメリカ西部、グリーンランド、シベリア、カナダ、アラスカ、カリブ海、コスタリカ、マレーシア、バハなど世界中の長期遠征、また近年はオートバイにて北・中・南米、アフリカ、ニュージーランド、スイス、スロベニア、クロアチア、ボスニア、インドアルプスなど各地を旅しています。





backcountry classroom Inc.

Tomorrow's Leaders from Backcountry.



山を学び

山から学ぶ



Outdoor Leadership

企業、スポーツクラブ、学校、コミュニティーを対象に、野外教育の手法を用いて、幅広いリーダーシップトレーニングを提供します。

Outdoor Professional

野外指導者を対象に、指導者養成、資格コース、講師派遣、コンサルティングを通じ、専門性の向上、維持をサポートします。

Outdoor Fan

野外愛好者を対象に、ハイキングテクニック、野外救急法、リープノートレイスなど、安全と環境に配慮して自然を楽しむツアーや講習会を提供します。

Outdoor Consulting

野外事業者に対して、プログラム効果、リスクマネジメント、環境マネジメントについて、事業の特性に応じた評価方法の設計、分析、報告を行います。



Walked with WEAJ for 10 years and Supporting LNTJ in the next 10 years.

株式会社 backcountry classroom
本社：〒3003253 茨城県つくば市大曾根 3765-4
営業所：〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋 1-10-3
(P)029-895-3775(F)029-895-2867(E)info@backcountryclassroom.jp

Workshop 3-1

9:15-10:45

プロとして在り続けることとは
 : WEAポートフォリオ（個人学習記録）から考える

林健児郎（大阪YMCA）

島崎晋亮（信州アウトドアプロジェクト）

岡村泰斗（backcountry classroom Inc.）



野外指導者として認定する資格は、国内外で様々なものがあります。なかでも機能レベルとして認定されるものは、そのほとんどで、一定の年数ごとに資格の更新制度がありません。職業・職務上の能力がある、すなわちプロフェッショナルとして認定され続けるためには、どのようなことが必要とされたり、どのような仕組みが良いのでしょうか。

プロフェッショナルの定義の一つとして、「学び続ける」という概念があります。プロフェッショナルとしてあり続けるためには、資格を取得した段階までの学びだけでなく、技術の進歩や社会の変化に合わせて、野外指導者としての専門性をさらに高め、これらの変化に対応して成長していかないとはいけません。このような点から現行の更新制度をみると、果たして本当にプロフェッショナルとしての資質の維持、更新に応えられるものになっているのでしょうか。

WEAでは、資格取得の過程で、受検者の学習過程を個人及び評価者が理解するために、ポートフォリオ（個人学習記録）の維持、更新を義務付けています。WEB上に構築されたこのポートフォリオシステムを用いることにより、指導者は資格取得後も、専門職としての指導実績や、最新の情報の学習履歴をポートフォリオに更新することが義務付けられ、プロフェッショナルとしての資質の維持、更新の評価を可能にし、特定の研修を行わずに、資格の更新をおこなっています。



このワークショップでは、WEAのポートフォリオシステムの紹介を通じ、野外専門職としての知識、スキルの維持、最新の情報の更新性など、プロフェッショナルとしての資質を維持するために必要な体系的なシステムについて協議します。ワークショップを通じて、さまざまな野外指導者団体で、野外専門職としての資格維持のあり方について理解を深めます。

Workshop 3-2

9:15-10:45

LNT的！？裸足ウォーキング

島崎敏一・久保田雄大 (Waqua合同会社)

陣馬形山トレイル / 陣馬形山キャンプ場 / 四徳温泉キャンプ場



導入

LNT初心者ですが、自分が8年間探究してきたことを基に発表させていただきます。本日は、「持続可能なアウトドアへ」という今回のテーマを踏まえ、

①触角としての機能、②身体の重心をコントロールするセンサーとしての機能、そして①と②のワークショップで感じた想いをシェアしたいと思います。(ワークショップ参加者が10名として)5名ずつ2チームに分かれてもらいます。裸足になるチームとそのまま履物を履いたチームになってもらいます。

① 触角としての機能

45cm×60cmの小箱を5つ準備して、それぞれ落ち葉・土・砂・小石・氷を用意する(中身は若干変更の可能性あり)、中身は分からないように隠しておく。

2チームそれぞれが、小箱の中身を足先を使って推測してもらおう。(足音=聴覚も参考にしてOK)解答用紙を用意して、それぞれの小箱の中身は何か?どんな感触か?快か不快か?など、足先から感じた情報を記入してもらおう。それぞれのチームで解答を発表しあう。

② 身体の重心をコントロールするセンサーとしての機能

①と同じく2チームに分かれて、会場周辺を歩く(可能であればビルの外まで)、スラックラインを行う。記入用紙を用意し、裸足と靴のそれぞれの感触や、体の反応、精神的な変化(裸足と履物とを比較して)を記入し発表しあう。

まとめA

参加者全員で裸足になり、簡単なヨガのポーズを行う。(クールダウンが目的)落ち着いたところで、裸足になり体験したことを振り返りつつ、効能と危険性について語り合う。

まとめB

世界的にも、サーフィン、ヨガなど自己の内面や自然との調和を、よりシンプルに追求するアウトドアスポーツが広がっている。ベアフットランニングも世界的にも流行していて、その考え方は日本にもあった修験道や武道などにも通じる。「自分を自然に合わせていく」という思想が根底にある日本(東洋)文化には、LNTのヒントがたくさんあるのではないかと、という仮定のもと「自然と共にいかに生きてゆくか」「人為と自然とのバランス」などをテーマに、参加者の体験を聴き、ディスカッションをしてみる。アメリカからもゲストが来て、日本中から様々な指導者が集まるので、日本文化とアウトドアとLNTについて面白い意見が出ると嬉しい。



Workshop 3-3

9:15-10:45

「安全」のつくり方 —野外におけるリスクとの折り合いを意図して—

中村 正雄（大東文化大学）



医療、交通、消防等のいわゆる高リスク業界では、安全を実現するための新たな考え方に関心が集まっています。そのひとつがシドニー・デッカーらの提唱する“Safety Differently”と呼ばれる概念です。

安全管理に関する従来のアプローチは、端的に言えば失敗（エラー）を排除して事故を防止するというもので、人間の不注意等による失敗すなわちヒューマンエラーを事故の原因と特定し、それを取り除くことに主眼が置かれています。それに対して“Safety Differently”は、ヒューマンエラーを事故の原因としてではなく、より深いところにある問題の産物、徴候として捉えます。そして問題を引き起こしたとされるエラーがどうしてその時点で妥当だったのか、その理由を分析することによって改善点を見出すことが重要であるとしています。ヒューマンエラーの起点は人間にあるのではなく、構造的に存在するという事です。

“Safety Differently”は、システムは本質的には安全ではなく、事故はシステムが普通に機能している時の構造的な副産物として常に起こり得る、としています。そして安全はシステムの唯一の目標ではなく、その他の目標（品質向上、他社との競争、顧客サービス、大衆イメージ、等々）との折り合いを付けながら、システムをマネジメントしていくことを目指します。このような考え方は、野外におけるリスクマネジメントを洗練させる上で有益な視点であると思います。野外の「構造的な副産物」に対してどのような「備え」あるいは「やりくり」をすれば事故防止、被害拡大防止につながるのか、安全とその他の目標とのトレードオフ（「できるだけ安全に」ではなく「必要に応じて安全に」）を現実的にどのように進めていくのか、リスクの両面性や組織としてのミッションを踏まえて検討することが重要であると考えられます。

参考文献

- ・ Smith, S. (2021). Beneficial Risks : The Evolution of Risk Management for Outdoor and Experiential Education Programs. Sagamore-Venture.
- ・ シドニー・デッカー（2010）「ヒューマンエラーを理解する -実務者のためのフィールドガイド-」海文堂出版.



標本で学ぶ！

ハチとヘビを知り尽くす

危険生物対策講座



危険回避を学ぶ

応急処置を学ぶ

解説ネタを学ぶ

標本から学ぶ

公益社団法人日本キャンプ協会主催「日本キャンプ会議 2016、2017」で、2年連続！
本講座のダイジェスト版が聴講者が選ぶ最も印象に残ったプレゼンテーション＝MIP賞に選ばれました。

講座の特長

危険生物の驚くべき生態と、そこから導き出される効果的な予防法、さらに「まさか」の時の応急処置などについて、じっくり学べる2日間のオンライン講座です。

解説ネタとしても効果の高い内容を学べ、参加者・子どもたちを「なるほど！」と言わせる裏話も知ることができます。さらに、動画や標本を見ながら、クイズとワークショップ等も通じて学びを深める事もできます。2日間4講座を受講し認定テストに合格すると、「危険生物対策アドバイザー」資格を申請できます。

講師紹介

西海太介

(にしうみ だいすけ)

インタープリター

セルズ環境教育デザイン研究所 代表



「人間にとって危険」と言う理由で嫌われたり、闇雲に駆除されてしまうことのある“危険生物”と呼ばれる生き物たちのことを、もっと知ってほしい。」そんな、生き物への熱い思いを持った講師です。

オンライン開催（2日間）

1日目：①ハチと応急処置 ②ヘビと応急処置

2日目：③その他の昆虫・動物と応急処置 ④植物と応急処置

4講座を受講し、認定テストに合格すると

【危険生物対策アドバイザー（DMA）】資格を取得可

①～④各講座受講費：5,500円（税込）

資格テスト＆発行手数料：2,200円（税込）

申し込み方法

下のURLまたはQRコードより

詳細をご確認の上、お申し込みください



詳細・お問い合わせ

体験活動リーダースアカデミー ホームページ

www.fieday.net

プラムネット株式会社 アウトドア共育事業部

〒221-0844

横浜市神奈川区沢渡 1-2 菱興高島台第3ビル 4F

TEL：045-312-6052 FAX：045-312-6077

Workshop 4-1

9:15-10:45

野外企業研修の経済的価値について考える

森本弘太（エンカレッジ株式会社）

菊池旭貢（エンカレッジ株式会社）



2020年から続いている新型コロナウイルスの影響により、企業が実施する研修の形態が大きく変わりました。対面での実施が難しいことからオンラインでの研修が主流となり、Zoomなどのツールを使い、ただ視聴するだけではなくより対話的になるように様々な工夫を凝らした研修が行われました。

しかしながら、特に新入社員にとっては同期との相互理解が乏しいまま仕事が進んでいく、オンラインや座学では体験が伴ったスキルにはなりにくく実際にやってみるとできない、など弊害も生まれています。そんな時代だからこそ、オンラインや座学にはない、野外環境において様々な状況に対応しながら体験学習を繰り返す野外研修の価値を今一度考えていくことが重要です。そして、確かなものとして社会に発信していかなければいけません。

しかし、当たり前のことですが事業として野外研修を行う上では、収益性を考えなければいけません。野外研修というツールを用いて、企業の困り事を解決するからこそ対価をいただき事業として成り立たせることができます。

本ワークショップでは、野外研修の概要を説明した後、エンカレッジや他の企業が実施している野外研修の事例から、業界を超えて様々な企業とのコラボレーション「企業研修×〇〇」を会場の皆さんと考える時間とします。これからの野外研修業界の展望を、経済的価値という観点から皆さんと考察していきます。民間企業の方はもちろん、学生さんも大歓迎です。

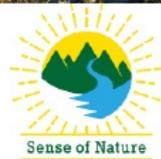




体験が、人を変える。
エンカレッジのアウトドア研修



Encourage Inc.



子どもが主役のアウトドアクラブ
Sense of Nature



Workshop 4-2

9:15-10:45

LNTで考えるWEA的ジャッジメント

吉田理史（株式会社信州アウトドアプロジェクト）



LNTの理解を深めていくと、これはやっていいの？悪いの？と判断に迷うことや、LNT的にはよくないことはわかっているが、やらざるを得ないような状況に遭遇することはありませんか？

LNTはルールではないので、アウトドアユーザーの倫理と状況に応じた判断が必要です。判断は、WEA 6 + 1 カリキュラムで、+1に位置づくスキルであり、6 コアスキル（野外生活技術、遠征計画、リーダーシップ、リスクマネジメント、環境スキル、教育）を効果的に活用するための最上位の野外指導スキルに位置付けられています。

このワークショップでは、判断の選択肢（オプション）と判断のための基準（クライテリア）から最適解を導き出す「意思決定マトリクス」の使い方を理解し、LNTのシナリオをもとに、どのような判断をするかワークを行います。判断のオプションとクライテリアは、個人や集団の経験、能力、社会的ポジションによって異なるので、それぞれの立場から説得力のある判断がなされることを期待します。

2015. WEA Outdoor Leader Course in Nagano





SOUP

*~ since 2007 ~
Shinshu Outdoor Project*

株式会社 信州アウトドアプロジェクト

野外教育/コミュニティビジネス

〒389-2703長野県下水内郡栄村堺6032-1

info@outdoorproject.jp

0269-87-3387

<http://outdoorproject.jp>

Research Seminar

キャンプ参加者の心理的変容を及ぼす体験と行動変容に関する研究

赤尾喜一1)、松原勇汰1)、徳田真彦2)

1)大阪体育大学体育学部 2)大阪体育大学



1. 目的

組織キャンプにおける効果測定はこれまで多く行われてきており、参加者の心理的側面や社会的側面に対してポジティブな変容が見られることが明らかになっている。しかしキャンプ参加者の具体的な出来事や体験内容についてはほとんど検証されていないことや1)、参加者の質的な変容を十分に追跡できていないことが指摘されている2)、3)。そのような中で、布野ら1)の研究においては、ジュニアヨットクラブの指導者を対象に質的研究法を行い、体験、心理的変容、行動変容の因果関係を明らかにしている。しかしながら、布野ら1)の研究では、「ヨットクラブ」という長期的な関わりによる変容であること、「海」をフィールドとしたクラブ活動でありフィールドやクラブの特性が見られることから、本研究においては短期から中期的なキャンプ活動を対象として研究を行いたい。体験、心理的変容、行動変容の因果関係を明らかにするにあたって、今年度はその基礎的データを明らかにする。

2. 方法

2.1. 調査対象者および内容

組織キャンプを行っている団体職員数名および一定のキャンプカウンセラー経験のある大学生カウンセラー数名を対象としインタビューを実施する。インタビューは以下2つの基幹質問を設定する。1) キャンプ活動中に参加者の心理面、行動面がどのように変化したか。2) 参加者が変化したのはどのような状況であったか。また、キャンプ参加者数名にもインタビューを行い、指導者側、参加者側それぞれの視点から体験、心理的変容、行動変容について検討したい。

2.2 データの分析方法

布野ら1)の研究を参考に、質的研究法を採用する、分析手順は①体験、心理的変容、行動変容に対応するデータを概念化し、それぞれの標題を付ける、②全ての標題を比較し、類似した内容を持つ標題を上位概念として再編成する、③再編成したカテゴリー群をより広く抽象度の高いレベルのカテゴリーへと統合する、といった手順を検討している。なお、信頼性を担保するために、野外教育を専門とする教員、野外教育を専門とする団体職員、キャンプカウンセラーなど複数人で一連の作業を行い、点検する。

3. 期待される成果

本研究を行うことで、①参加者の心理的変容にかかわる体験、②具体的な心理的変容の内容、③具体的な行動変容、といった基礎的データが得られると考えられる。これらのデータをもとに、仮説モデルを生成し「調査2」において、仮説モデルの検証を行いたい。以上を明らかにすることにより、どのような体験が心理的変容を起し行動変容に繋がるのかが明らかになり、キャンププログラムの開発や、指導者やカウンセラーの介入方法などに活かすことができると考えている。

参考文献

- 1) 布野泰志, 中本浩輝, 幾溜沙智ほか (2017) : 期的なヨット活動における小中学生の心理的変容および行動変容について-ジュニアヨットクラブに着目して-, 野外教育研究, 20-2, 1-18.
- 2) 伊原久美子, 飯田稔, 木谷尚史ほか (2009) : 冒険教育プログラムにおける中学生の事故効力感の変容要因の探索-質的研究方法を用いたプロセスモデルの検討から-, 野外教育研究, 12-2, 7-21.
- 3) 岡村泰斗, 小野昌彦, 福田哲也ほか (2004) : 不登校経験時に対するキャンプ療法の試み, なら実践総合センター研究紀要, 13巻, 137-142.

Research Seminar

シックスハット発想法を用いたASE活動における心理的安全性とグループパフォーマンスに関する研究

田井 誠人(スポーツ学科 野外スポーツコース)
指導教員 橋本 和俊



キーワード：ASE、シックスハット発想法、グループパフォーマンス、心理的安全性

第1章 序論

近年、若者の特性として対人不安、自己抑制、コミュニケーション能力の低さが問題視されている。これらの社会的問題に対応しようとPBLやアクティブラーニングなどの集団での課題解決型プログラムが数多く実践されている。本研究においては、とくに野外教育のひとつの手法として活用されるASE (Action Socialization Experience: 社会性を育成するための課題解決型の活動体験) に着目する。

一方で、これらの活動は、豊富なコミュニケーションを要求されるが、発言者や発言量に偏りが散見される。つまり、個人の心理的安全性が確保されていない状態で実施されており、グループのパフォーマンスに大きく影響を及ぼしていると考えられる。これに対し、ASEではフルバリューコントラクトという行動規範を設定することがあるが、具体的な行動方法は確立されていない。本研究では、シックスハット発想法 (Edward de Bono考案: ディスカッションを行う際に帽子の色によってそれぞれの役割を意識させ発言を促す方法) を援用したASE活動を提案したい。

そこで本研究は、シックスハット発想法を援用したASE活動における参加者の心理的安全性とグループパフォーマンスの影響について明らかにすることを目的とする。

第2章 研究方法

【対象者】

A 専門学校に通う学生 30名
B 県立看護学校に通う学生 30名
計60名を対象とした。

【調査時期】6月中旬

【調査方法】

実験群：ASEにシックスハットを用いる群
統制群：ASEのみを行う群

【調査内容】

① 心理的安全性尺度

Edmonson (1999) が作成したPsychological Safety Scaleを丸山ら (2019) が翻訳をしたPsychological Safety Scale 日本語版を用いた。

② グループパフォーマンス

河津ら (2012) が作成した試合中の行動指標に関するアンケートを用いた。
観察法:ビデオの撮影とフィールドノーツを用いたスタッフによる観察

【分析方法】

アンケートとフィールドノーツで得られたデータを分析

《引用文献》

河津慶太・杉山佳生・中須賀巧 (2012) 「スポーツチームにおける集団効力感とチームパフォーマンスの関係の種目間検討」スポーツ心理学研究39 (2) 153-167
エドワード:川本英明(2016)6つの帽子 思考法.パンローリング株式会社, pp. 32-42

Symposium

～シンポジウムテーマ～

野外指導者・アウトドアガイドにとって大切な資質とは Seeking Essential Competencies for Outdoor Leaders and Guides

持続可能なアウトドアを目指し、野外指導者、アウトドアガイドのグローバルスタンダードと、それを活用する地方自治体の立場から、我が国にとって、持続可能なアウトドア事業、産業のあり方を提言します。



モデレーター

金子森 (Kaneko Shin)

EXPLORE HAKONE代表取締役

箱根DMO 戦略推進委員

米国・南カリフォルニア大学ビジネス学部卒業。

帰国後、30歳を期に地元・箱根にUターンし2015年より訪日外国人専門のガイドカンパニー・Explore Hakoneを創業。1日1組限定のプライベートツアーとしてこれまで世界25か国、1,000組以上のガイド実績。

箱根DMOにて戦略推進委員も兼務しガイド育成プロジェクトリーダー。全国通訳案内士、JMGA登山ガイドII、LNT Trainer、GSTC Professional Certificate in Sustainable Tourism。

スピーカー

芹澤健一 (Serizawa Kenichi)

アルパインツアーサービス株式会社代表取締役

日本アドベンチャーツーリズム協議会理事

学生時代より登山に親しみ、国内のほかニュージーランドやカナディアンロッキーの山で過ごす。20代前半より世界各地の山岳地帯や辺境、国立公園などをフィールドとする登山・トレッキングツアーの企画造成と運行に携わり、コーディネーターとしてのツアーリーダー業務経験は38年にわたる。

また、国内では地域観光促進や環境保全、ガイド育成など総合的なプロデュースをおこないながら、日本古来の歴史や文化、四季折々の大自然の魅力を取り込んだ体験型アドベンチャーツーリズムを、国内各地の自治体との連携により世界に向けて発信している。





スピーカー

佐藤守 (Sato Mamoru)

箱根DMO（一般財団法人箱根町観光協会）専務理事
株式会社リクルートホールディングスより出向92年名古屋大学経済学部卒。

（株）リクルートの旅行領域「じゃらん」で地域や宿泊施設の営業、じゃらんNETの立ち上げなどを経験。じゃらん営業部長、北海道じゃらん社長、リクルートホールディングス総務部長を経て2018年より箱根DMOに出向。

現在専務理事として官民一体ALL箱根の実現に向けて、箱根の観光戦略を推進中。



スピーカー

林綾子 (Hayashi Ayako)

びわこ成蹊スポーツ大学教授

Wilderness Education Association Japan理事

広島YMCA等でのキャンプ指導経験から、野外教育の道を志し、筑波大学にて野外教育を学び、アメリカIndiana Universityにて博士号（レジャー行動学：アウトドアレクリエーション専攻）取得。

アメリカのロッキー山脈にてWEAやOutward Boundの冒険教育指導に携わり、2007年よりびわこ成蹊スポーツ大学に勤務。野外スポーツコースの教授として学部・大学院教育・研究に従事。大学の実習でのwilderness活用、地域資源を活用した子どもたちの通年型プログラムの開発・指導を行っている。

WEAJ理事、WEA Certified Examiner, LNT Trainer。



the 10th Anniversary WEAJ and 1st LNTJ Joint Conference Executive Committee.



WEAJ実行委員長

林綾子(WEAJ)
びわこ成蹊スポーツ大学



LNTJ実行委員長

寺田達也(LNTJ)
ひの社会教育センター

運営チーム



運営リーダー

難波勇吉(WEAJ)
YMCAせとうち



金子森(LNTJ)
EXPLORE HAKONE



岡田成弘(WEAJ)
東海大学

広報チーム



広報リーダー

森田智里(WEAJ)
国立能登青少年自然の家



稲松謙太郎(WEAJ)
国際自然大学校



古幡浩史(LNTJ)
株式会社R.project

事務局



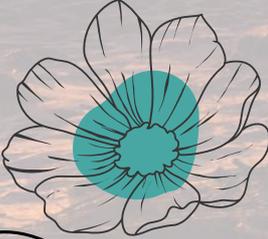
岡村泰斗(WEAJ & LNTJ)
株式会社backcountry classroom



栗原亜弥 (LNTJ)



森本弘太(WEAJ & LNTJ)
エンカレッジ株式会社

Thank you 

自然保育 ゼミナール 開講 2022



今年の講座

学べるテーマは

安全

自然との持続可能な関わり方



日程・内容の詳細はWebページをご覧ください

主催:公益財団法人 社会教育協会 ひの社会教育センター
東京都日野市多摩平 3-1-13 TEL:042-582-3136

※この講座は感染症対策をとった上で実施いたします。



このマークはオンライン(ZOOM)で開催されます

	テーマ		日にち	講師(敬称略)
1	知らなかったじゃすまされない危険植物の世界		6/28(火)	西海 太介
2	ハザードマップを使いこなす! 気象や地形、災害リスクから考える自然保育の防災計画		7/8(金)	渡辺 直史
3	野外に詳しい弁護士から学ぶ! 現場指導者もつ法的リスクとその準備、心配なこと一問一答!		9/5(月)	早川 修
4	森でもしものことが起こった時の救助の実際 ※集合研修		10/16(日)	井上 恵里
5	森を使う責任について考える～LNT～(連続講座①)		11/16(水)	若泉 将貴
6	自然保育での環境教育の実際(連続講座②)		12/7(水)	井上 恵里
7	発達障害から考える子どもたちの姿		1/25(水)	水村 賢治
8	ワタシはこうやってチームを作った! 県からも認められる自然保育のシステムの作り方 森のわらべ多治見園の事例 & スタッフも親も一丸となって支える安全への取り組み		2/2(木)	浅井 智子
9	チームで保育する体制づくりについて考える		3/19(日)	野村 直子

お申し込み お支払い方法



—お申し込みの方法とその後の流れ—

中面をご確認の上、開催日 2 週間前までに
QR コードを読み込みお申込みいただくか、
下の URL を入力して検索し、お申込み入ください。
<https://hino-shakyo.stores.jp>

お申し込みは
こちら▶



—キャンセルについて—

主催者側の講座中止以外、参加費をお支払い後、返金は出来ませんのでご了承ください。
尚、録画による事後配信の予定はありません。

—お問い合わせ—

お問い合わせはメールにて承ります
返信には 3 日ほどいただく場合があります。ご了承ください。

moriyou@hino-shakyo.com 担当:小澤・井上





the 10th Anniversary WEAJ and 1st LNTJ Joint Conference

<http://10thconf.weaj.jp/>

